



課長補佐  
(総括)



●平成22年入庁  
留学(南カリフォルニア大学)、大阪国税局個人課税課補佐、出雲税務署長、国税庁参事官補佐などを経て令和7年から現職。

国税庁 徴収部 管理運営課 課長補佐(総括)

新垣 南

全ては適正かつ公平な課税・徴収の実現のために

課税企画官



●平成17年入庁  
留学(ジョージタウン大学院)、国税庁課税総括課補佐、財務省主税局参事官補佐、熱海税務署長、東京国税局調査一部次長などを経て令和7年から現職。

国税庁 課税部 課税総括課 課税企画官

田畑 仁

租税回避対策の司令塔

他の力も借りながら一歩ずつ

適正かつ公平な課税・徴収の実現という揺るがない国税庁の使命。一般的には税務調査や査察といったイメージが強いと思いますが、「あらゆる税務手続が税務署に行かずにできる社会」の実現も目指しており、電子申告やキャッシュレス納付の利用を推進しています。

このうち今の部署では、「キャッシュレス納付」の推進に取り組んでいます。普段みなさんはネットショッピングやキャッシュレス決済を使っていると思いますが、国税の納付については、半数以上が金融機関や税務署の窓口で納めています。納税者の方の移動の時間を節約するのはもちろんのこと、業務の効率化や現金の管理といった社会全体のコスト削減にもつながるため、組織をあげて取り組んでいます。国税当局だけでは限界がありますので、他省庁、自治体、金融機関、関係民間団体など、他の力も借りながらより一層の利用拡大に努めています。

このほか、適正な申告・納税を続けたことや、関係団体の活動、租税教育、税務広報の活動を通じて多大な貢献をした方に対して、財務大臣や国税庁長官から表彰をする式典を執り行っています。受賞者の選考から会場の運営など、綿密な段取りが必要でプレッシャーもありますが、このような行事を通じて申告・納税についての啓蒙活動を行っています。



これまでの総括と抱負

国税庁を軸としながら、国税局・税務署・他省庁といった様々な地域・部署で働いています。毎年、最初は不安なことも多いですが、そこで得た経験・人との繋がりは次の業務に生きており、ひいては微力ながら世の中へ貢献できていると思いますので、これからも頑張っていきたいです。



租税回避との戦い

租税回避とは、税制が想定していなかったようなスキームを駆使し制度のスキマを突き、合法的に税負担を減少させる、という問題である。

合法的ならば放っておいていいのでは?という考え方もあるだろう。国民は、財力を持ち高度な専門家を雇いスキームを利用できる人たちだけが税を逃れていくのを許すだろうか。国税組織は、一般の納税者に厳格に税負担を求める一方で、高度な相手には手をこまねいている存在でいいのだろうか。そんなわけではない。

この対策には、選りすぐりのエキスパート部隊が厳格な税務調査によりスキームを解明し、その綻びを突くという執行面と、制度の抜け穴を塞ぐ税制改正という制度面の両面から対応が必要となる。その歯車をかみ合わせるための国税組織内の司令塔となるのが「課税企画官」である(と自ら定義)。



点が線に つながるキャリアパス

もちろん、こうした仕事は容易ではない。しかし、本庁は適正公平課税の実現に向けて現場の苦勞を背負う責務がある。これまでの国税局・税務署勤務での、現場の調査官の正義感と苦勞、また、一般の納税者の方々からの叱咤激励が支えだ。

制度を改正するにしても、簡単に潜り抜けられるような緩い手当てでは意味がなく、その一方で、関係のない納税者を多く巻き込むような制度も困る。これまでの、海外ロースクール留学や国税局調査部・財務省主税局等で得た「知識経験」、時に「人脈」をフル活用して検討・議論する。

基本的に一貫して税の仕事ができるのが国税庁総合職の良いところだ。一口に税の仕事といっても現場の税務調査から制度設計まで、税務調査といっても国際的大企業から個人事業まで極めて多様であり、そうした各分野を行き来する。租税回避対策のような最先端の課題には専門性が必要だが、特定分野の専門性だけでも足りず、各方面の知見を統合していく必要があり、そのためには、一貫した「税の太い幹」の中で、多種多様な経験を積む必要があると実感する。そして、困難な課題に直面し、自分のこれまでの点が線につながった瞬間、「ひらめきが生じ、興奮し、ものすごくやりがいを感じる」のである。



01 はじめに  
02 国税庁の全体像  
03 キャリアパス  
04 特集  
05 採用情報